

平和ってなんだろう？

平和体験学習報告者

杉本亜美（占冠中2年生） 判井拓也（占冠中2年生）
中嶋太一（トナム中2年生） 船橋千洋（トナム中2年生）

第27回

平和体験学習

8月4日～7日

この報告は子どもたちの報告書から抜粋したものです。

【原爆資料館に行きました】

原爆資料館には、8時15分で止まった時計や原爆で焼けた三輪車がありました。

中身も全部黒焦げになった弁当箱がありました。そして焼けた服。

石の階段があって、そこは薄く黒くなっていました。それは人が座っていたときに放射能を浴びて跡が残ったものでした。爆風の勢いで壁に突き刺さったガラスもありました。

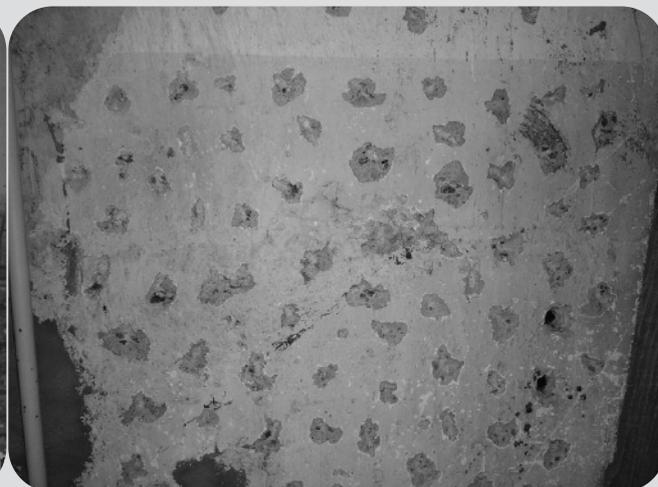
展示物の一つ一つ見て、原爆の恐ろしさが伝わってきました。

原爆の残酷さを見てきました。



原爆の被害を受けた広島の様子です。

熱や爆風によって建物一つない荒野になりました。原爆一つでこのような大きな被害が出ます。核兵器は早くなくした方が良くと思います。



原子爆弾が落ちて強風が吹いて、その時にガラスが突き刺さった跡です。一発の爆風によって壁が破壊されると知って恐ろしいと思います。



原爆で焼けた三輪車です。一瞬で三輪車が焼けたということは、ものすごい温度だったんだと思いました。



原爆が投下された8時15分で止まった時計です。8時15分にすべてが無くなったのだと感じました。忘れてはいけない時間だと思います。平和が永遠に続くように願っています。



原爆の子の像。

2歳で被爆し、12歳で亡くなった佐々木貞子さん。貞子さんの同級生が、原爆で亡くなった全ての子どもたちのために慰霊碑をつくらうと呼びかけ作られた像です。

【被爆者のつどい

～木村いわおさんからお話を聞きました～

木村さんは広島県の北広島町に住んでいました。当時13歳の木村さんは、勤労働員で爆心地から4.3キロメートルの三菱鉦業広島造船所にいました。そして作業開始の合図を待っているときに、光と爆風におそわれました。外に出ると、きのご雲が見えました。

自宅に戻ろうとしたけれど、炎やがれき、熱気がすごくて行けません。ですが、翌日弟に、また次の日に両親に会えました。でも、母親は大やけどで意識が無く、姉は行方不明で、妹2人は亡くなっていました。妹たちは家の下じきになり、父親が助けようとしたけれども助けることができなかった…。

1カ月ぐらいたったときに、父親の体に斑点が出てきて髪の毛が抜け、亡くなりました。大けがをしていなかった父親は、家族を探し歩き回っていたのです。13歳の木村さんはたった一人で火葬される父親を見送りました。

年が明けて、弟が生まれました。その弟は母親の胎内で被爆して原爆小頭症で生まれてきました。

その後木村さんは、子どもだけで、家族で暮らすための小屋を建てて、生き抜いてきました。

姉の遺体は今もなお見つかってはいません。



原爆ドームは戦争の恐ろしさが伝わる場所です。一瞬でこのような姿になりました。建物の周りには壁の一部が落ちていました。中にいた人は全員死亡したと伝えられています。



灯ろう流しの様子です。一人ひとりが平和へのメッセージを書いて川に流しています。

たくさん人が参加されていて、平和を望んでいるのに、それをかなえないのに、でも、戦争は今でもあって、とても悲しいです

【広島に行って】

戦争の恐ろしさ、原爆、放射能の悲惨さを強く感じました。

二度と戦争は、繰り返してはならないと思いました。

原爆は作ってはいけないし保持をしてはいけない、使ってはいけないと心から思いました。そして世界中の核兵器をなくすべきだと強く思いました。

平和とは何か。戦争をしないこと、そして核兵器をなくすこと、そして戦争について考えることで平和につながるのだと思います。友達と遊んだり、スポーツしたりするのも、戦争をしていたらできないことです。

なぜ人間はこんなものを作るのでしょうか。早く世界から、核ミサイルも戦争もなくなってほしいと思います。原爆や放射能について学びました。貴重な体験をする機会を与えてくださった方々に心から感謝しています。ありがとうございました。